

# 2017年3月期連結業績、 中期経営計画および 2018年3月期連結業績予想

2017年5月17日

サクサ ホールディングス株式会社

＜将来の見通しに対する記述の注意事項＞

本資料に記載されている業績予想、将来予想については、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合がありますのでご承知おきください。

## ■ 本日の説明内容

1. 2017年3月期 連結業績概要
2. 中期経営計画（2018年3月期～2020年3月期）
3. 2018年3月期 連結業績予想

本資料に記載されている金額および比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

## ■ 2017年3月期 連結業績概要

1. 主な取組み（事業の拡大と経営基盤の強化）
2. 連結売上高の主な増減内訳
3. 連結営業利益の主な増減内訳
4. 連結損益実績
5. 連結貸借対照表
6. 連結キャッシュ・フロー

# 1. 主な取組み（事業の拡大と経営基盤の強化）

2017年3月期連結業績概要

## 1.事業の拡大

### (1)オフィス市場

- ① UTM（統合脅威アプライアンス）SS3000Ⅱの発売
- ② キーテレホンシステム「PLATIAⅡ（プラティアⅡ）」シリーズの発売

### (2)S I 事業

- ① MCS Global Cloud（Managed Client Security）の提供
- ② 車両ナンバー認識システム提供

## 2.経営基盤の強化

### 経営基盤の強化

- ① 有利子負債の圧縮
- ② 財務体質の強化
- ③ 要員の適正化



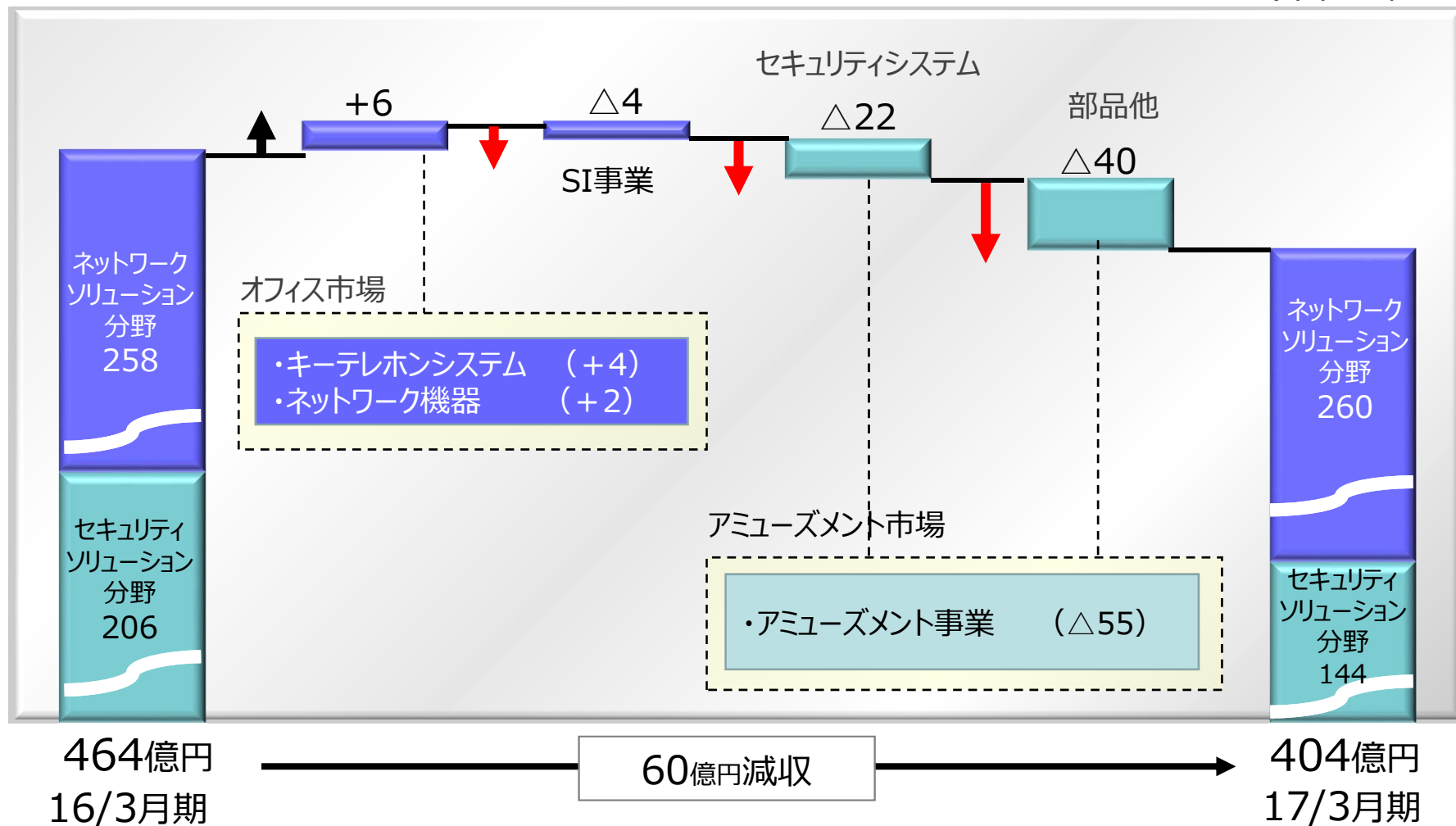
アミューズメント市場の急激な変化  
SI事業の競争環境の激化

## 2. 連結売上高の主な増減内訳

2017年3月期連結業績概要

オフィス市場向けは概ね計画どおり推移しているものの、アミューズメント市場の急激な変化およびSI事業の競争環境の激化による受注の減少

(単位：億円)

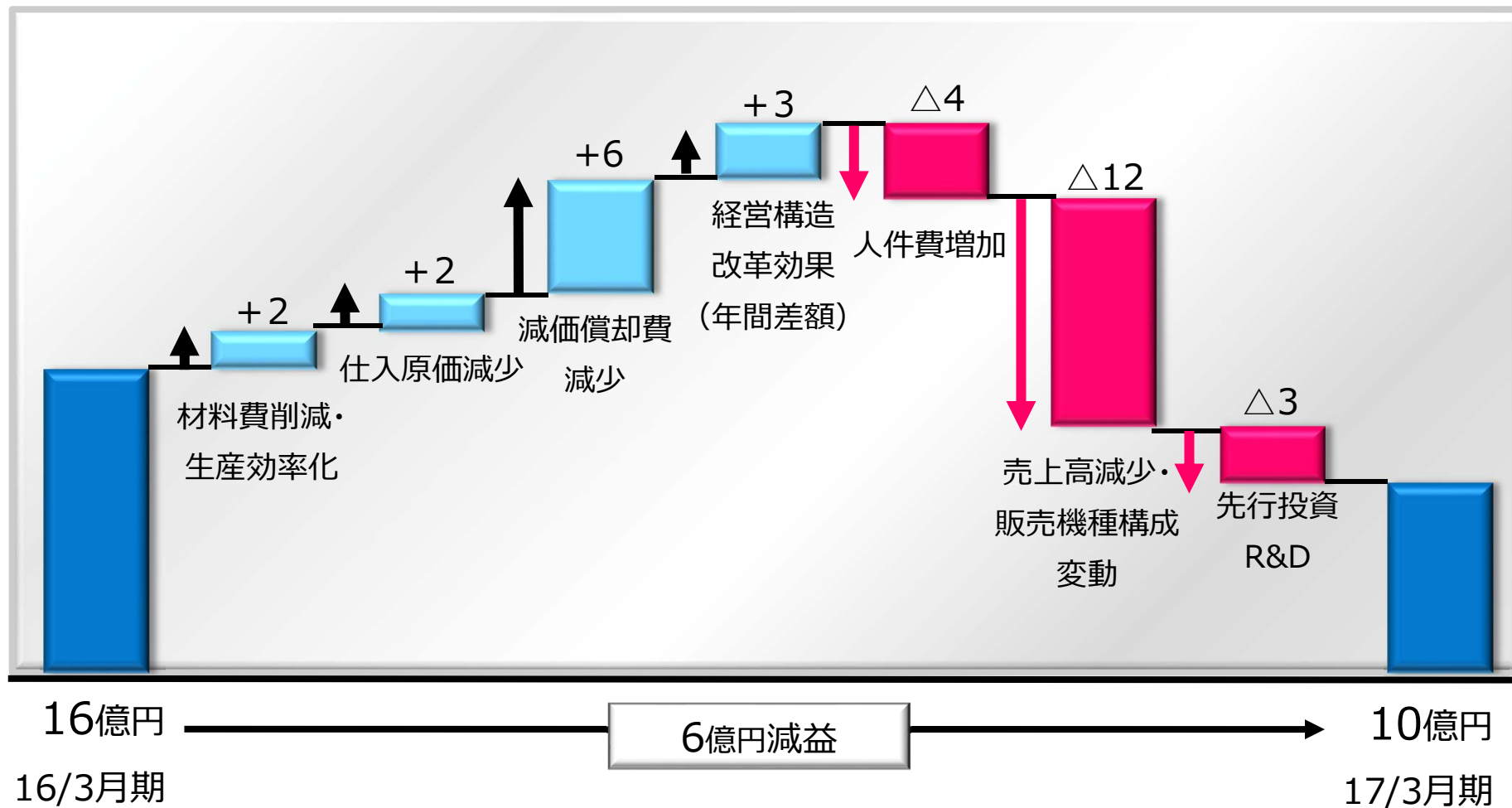


### 3. 連結営業利益の主な増減内訳

2017年3月期連結業績概要

材料費削減、生産効率化による原価低減等の取組み効果はあるものの、売上高の大幅減少による利益の減少のため、6億円の減益

(単位：億円)



## 4. 連結損益実績

2017年3月期連結業績概要

市場環境の大きな変化により、減収減益。2016年3月期については、経営構造改革実施に伴う特別損失を計上しているため2017年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益は2016年3月期と同水準であった。ROEも2.2%と同様の水準。

(単位：億円)

	16/3月期 実績	17/3月期 実績	増減	増減
	(A)	(B)	(B - A)	比率
ネットワークソリューション分野	258	<b>260</b>	2	1%
セキュリティソリューション分野	206	<b>144</b>	△62	△30%
売上高	464	<b>404</b>	△60	△13%
営業利益	16	<b>10</b>	△6	△38%
経常利益	17	<b>11</b>	△6	△35%
親会社株主に帰属する当期純利益	5	<b>5</b>	△0	△0%
1株当たり当期純利益	8.86円	<b>8.42円</b>	-	-
ROE	2.3%	<b>2.2%</b>	△0.1%	-
配当	3円	<b>(予定) 5円</b>		

## 5. 連結貸借対照表

2017年3月期連結業績概要

開発効率化等による資産の減少で10億円、借入金の返済等による負債の減少で15億円、純利益の計上等による純資産の増加が5億円あり、総資産は10億円減少

(単位：億円)

資産の部	16/3月期末 (A)	17/3月期末 (B)	増減 (B - A)	主な増減の要因
流動資産	252	<b>252</b>	△0	
固定資産他	173	<b>164</b>	△9	有形固定資産、無形固定資産の償却による減少
資産合計	426	<b>416</b>	△10	
負債・純資産の部	16/3月期末 (A)	17/3月期末 (B)	増減 (B - A)	主な増減の要因
流動負債	119	<b>112</b>	△7	社債の償還、短期借入金の返済による減少
固定負債	85	<b>77</b>	△8	長期借入金、退職給付に係る負債の減少
負債合計	204	<b>189</b>	△15	
純資産	222	<b>227</b>	5	純利益の計上および退職給付に係る調整累計額の増加
負債・純資産合計	426	<b>416</b>	△10	
自己資本比率	51.8%	<b>54.3%</b>	2.5%	



## 6. 連結キャッシュ・フロー

2017年3月期連結業績概要

投資活動に伴う支出はあるが、親会社株主に帰属する当期純利益および減価償却費の計上により現金及び現金同等物期末残高は11億円増加

(単位：億円)

	16/3月期末	17/3月期末
<b>A. 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	24	37
税金等調整前当期純利益	11	9
減価償却費	28	22
運転資金の増減	△5	5
その他	△10	0
<b>B. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	△17	△16
設備投資支払額	△17	△16
その他投資活動	-	-
フリー・キャッシュ・フロー	7	21
<b>C. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	2	△10
現金及び現金同等物期末残高	72	83

## ■ 新中期経営計画（2018年3月期～2020年3月期）

1. 中期経営計画見直しの背景
2. 新中期経営計画の位置づけ
3. 新中期経営計画の概要
4. 目標とする経営指標

# 1 - 1. 中期経営計画見直しの背景

(目標)  
 連結売上高 : 550億円以上  
 連結経常利益 : 30億円以上  
 ROE : 早期に5%以上



2018年  
3月期



2017年  
3月期

## 成長軌道への回帰

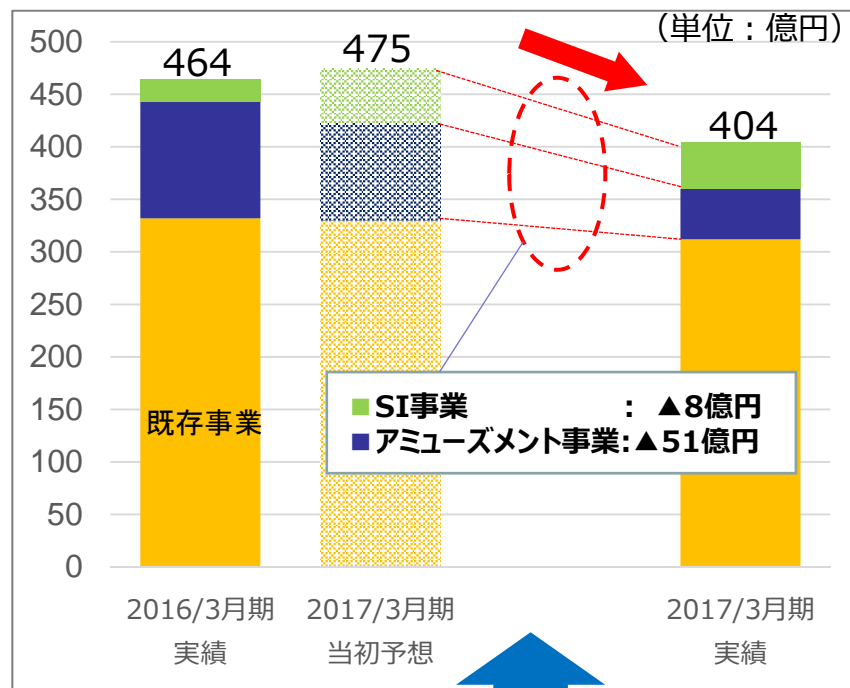
(目標)  
 連結売上高 : 475億円  
 連結経常利益 : 21億円  
 ROE : 4.2%



2016年  
3月期

## 事業成長に向けた収益体質の経営基盤構築

(目標)  
 連結売上高 : 460億円  
 連結経常利益 : 15億円  
 ROE : 2.3%



(実績)

連結売上高 : 404億円  
 連結経常利益 : 11億円  
 ROE : 2.2%

計画未達成

(実績)

連結売上高 : 464億円  
 連結経常利益 : 17億円  
 ROE : 2.3%

計画達成

# 1 - 2. 中期経営計画見直しの背景（事業環境の変化）

## 事業環境の大きな変化

現状	今後
①アミューズメント市場の想定を超える低迷	①市場は不透明性・不安定性が継続
②SI事業における競争の激化	②競争の激化が継続
③オフィス、社会インフラ市場環境の変化	③デジタル・トランスフォーメーションの広がり



現在の事業構造のままでは中期経営計画を実現していくのが厳しい状況



新中期経営計画の策定

## 2. 新中期経営計画の位置づけ

徹底した事業の効率化と成長軌道への足がかりとする期間

### 基本方針

- 持続成長可能な事業への転換
- あるべき姿に向けた収益構造への変革

Beyond2020  
その先へ

### 新中期経営計画の取組み

#### 前中期経営計画の取組み

- 事業成長に向けた収益体質の経営基盤の構築
- 成長軌道への回帰

#### 事業構造の再構築

- ・集中事業の拡大
- ・新規事業の創生
- ・事業の効率化

#### 経営基盤の強化

- ・グループ機能の最適化
- ・総原価の低減
- ・財務体質の強化
- ・要員の適正化

前中期経営計画

2016年3月期→

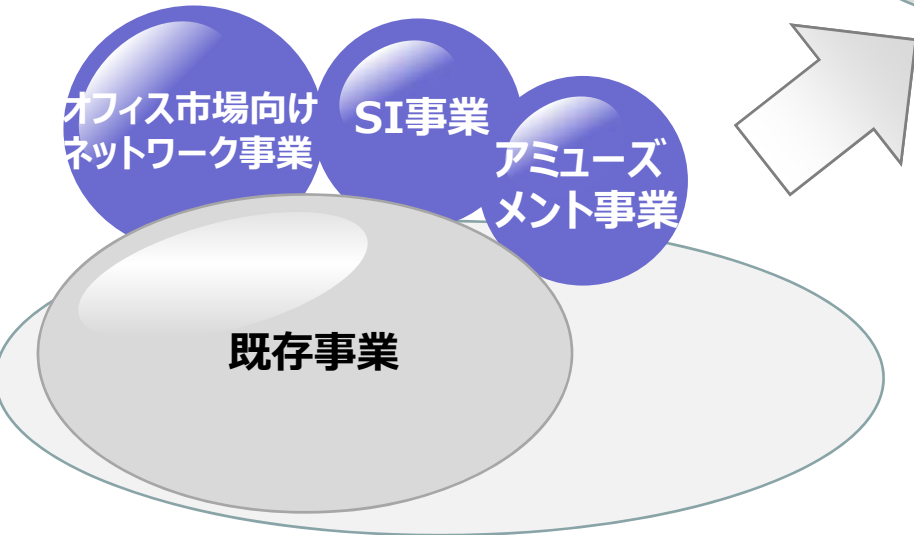
新中期経営計画

2018年3月期 → 2020年3月期

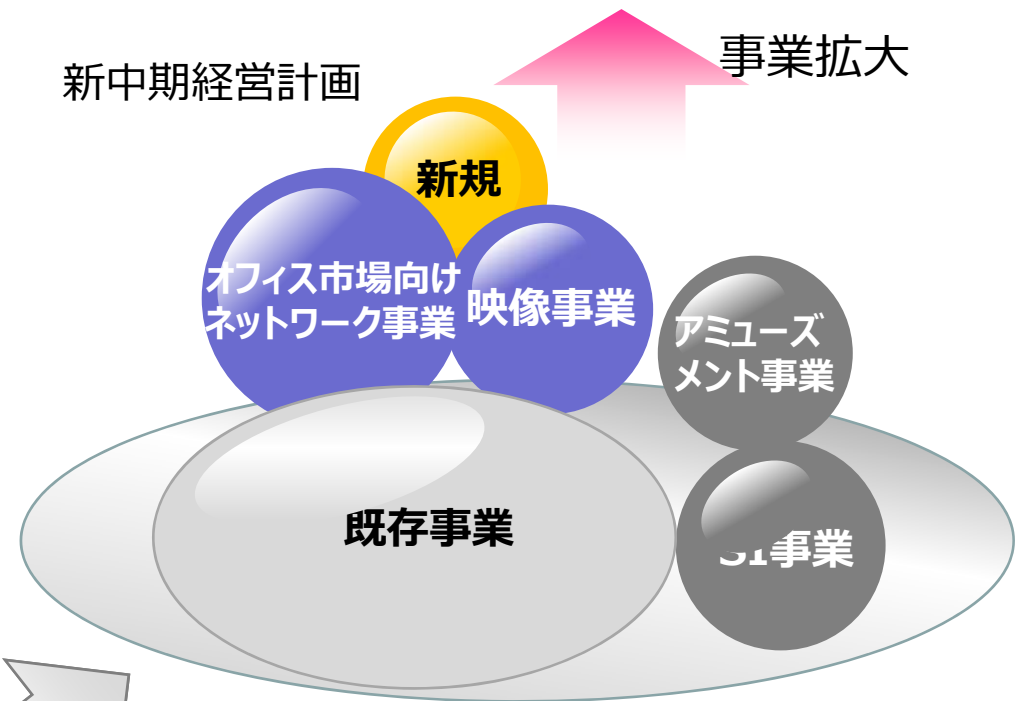
# 3 - 1. 事業構造の再構築

- 事業構造の再構築**
- ・集中事業の拡大 ●
  - ・新規事業の創生 ●
  - ・事業の効率化 ●

前中期経営計画

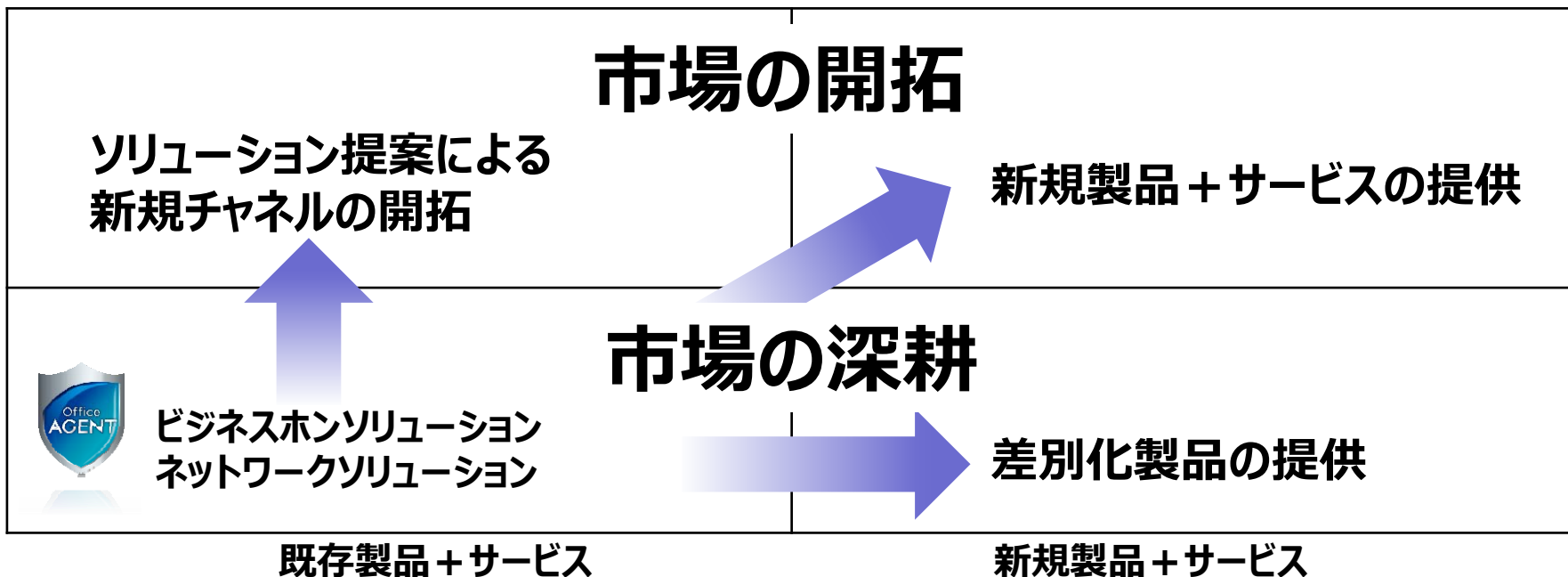


新中期経営計画



# 3-2. 集中事業の拡大 (オフィス市場)

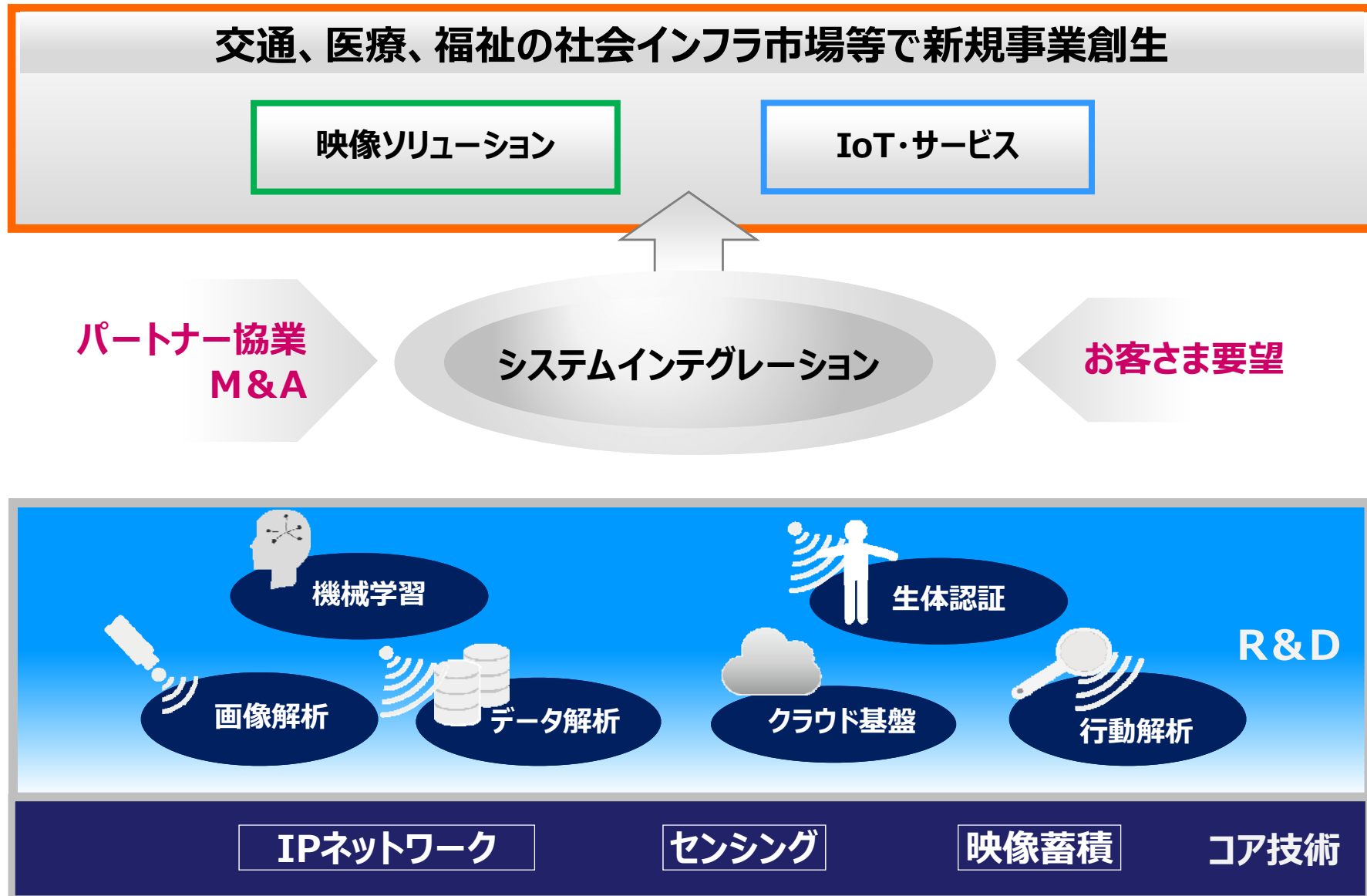
新規チャンネル  
既存チャンネル



# 3 - 3. 集中事業の拡大 (映像事業)

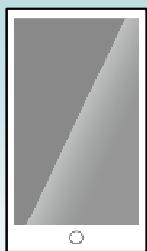






## 交通、社会インフラ市場等での映像圧縮

- ・監視
- ・防犯
- ・マーケティング
- ・顧客



スマートフォンで閲覧



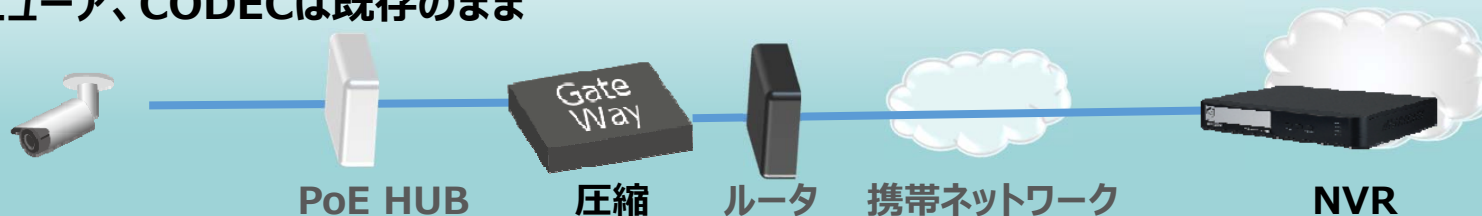
長時間録画、  
少容量、低コスト



高精細な映像で監視

### 映像圧縮システムの特長

- ①フルHD映像を約1/10に圧縮（LTE回線送信可）
- ②多数カメラの映像を同時圧縮
- ③ビューア、CODECは既存のまま



## 交通、社会インフラ市場等での映像サービス例

・監視 ・防犯 ・マーケティング ・顧客

分析、解析

### ナンバー認識システムの特長

道路

工場

施設や駐車場

① 違反車両検知  
(走行中も可)

② 未登録車両の検出

③ 工場施設への入退車両の管理

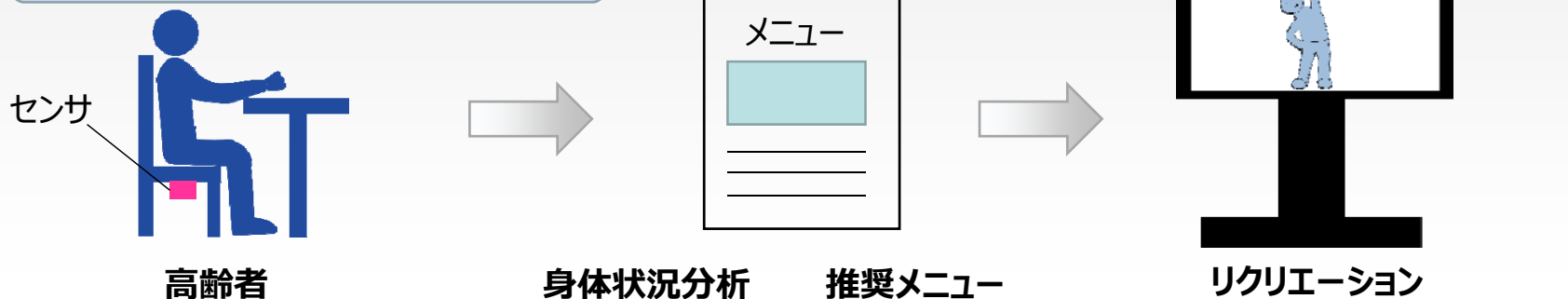
# 3 - 7. 新規事業の創生 (IoT・サービス展開例)

## 医療、社会インフラ市場等でのIoTを使ったスマートケアサービス

- ・医療
- ・見守り
- ・スポーツ

分析、解析

### ライフログ活用サービス (例)



カメラ (画像)

生体センサ

マイク (音)

OP 機器制御

IoT

学習済  
データ

モバイル  
GW

人工知能

プラットフォーム

各種サービス

人工知能  
マーケティング

・デバイス管理  
・セキュリティ

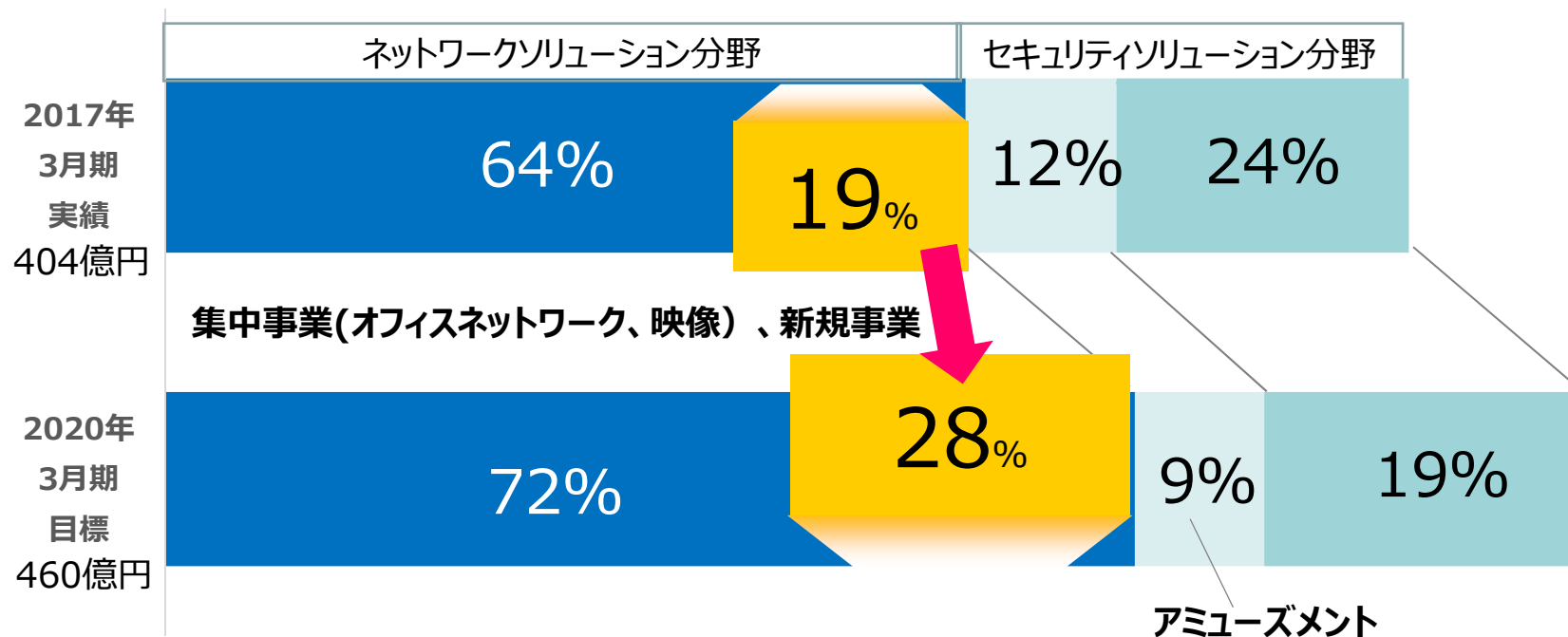
# 3 - 8. 「経営基盤の強化」に向けた主な取り組み

1. グループ機能の最適化	<ul style="list-style-type: none"><li>① 事業中核会社のサクサ株式会社<ul style="list-style-type: none"><li>・事業推進体制を事業部組織から機能別組織に見直し</li><li>・新規開拓部門の独立組織化</li></ul></li><li>② 事業構造の再構築に向けた経営資源の配分の見直し</li></ul>
2. 総原価の低減	<ul style="list-style-type: none"><li>① 開発-調達-生産-販売-保守までの各プロセスにおける一貫したトータルコストダウンの継続推進</li><li>② 外部流出費用の削減</li><li>③ 開発生産性および品質の向上</li></ul>
3. 財務体質の強化	<ul style="list-style-type: none"><li>① 資本効率の向上、開発効率の向上および投資効率の向上</li><li>② 棚卸資産の圧縮</li><li>③ キャッシュポジションの最適化と有利子負債の圧縮</li></ul>
4. 要員の適正化	<ul style="list-style-type: none"><li>① 事業構造の変化や事業転換に対応できる人材の育成と確保</li></ul>

# 4. 目標とする経営指標

## 2020年3月期目標

連結売上高 460億円 連結経常利益 20億円 ROE 5%以上



## ■ 2018年3月期 連結業績予想

1. 連結売上高予想
2. 連結損益予想
3. 投資計画

本資料に記載されている金額および比率は表示単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

# 1 - 1. 連結売上高予想

2018年3月期連結業績予想

集中事業拡大の取組みによるオフィス向けの製品、サービス提供および映像事業の拡大により、6億円の増収を予想

(単位：億円)

		17/3月期 実績	18/3月期 予想	増減	増減
		(A)	(B)	(B - A)	比率
	キーテレホンシステム	142	<b>137</b>	△5	△4%
	ネットワーク機器他	118	<b>125</b>	7	6%
ネットワークソリューション分野		260	<b>262</b>	2	1%
	セキュリティシステム	73	<b>77</b>	4	5%
	部品他	71	<b>71</b>	0	0%
セキュリティソリューション分野		144	<b>148</b>	4	3%
合 計		404	<b>410</b>	6	1%

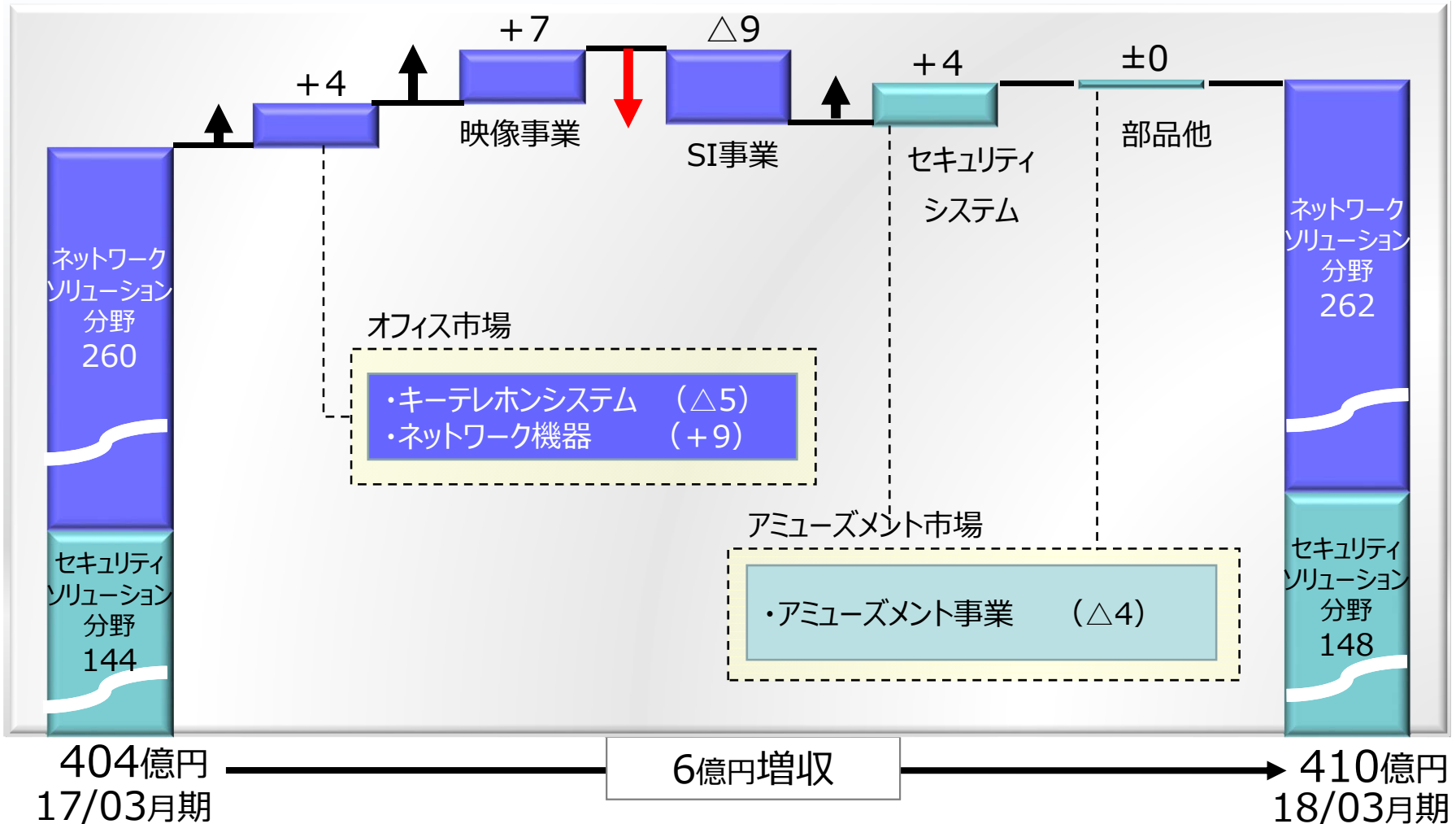


# 1 - 2. 連結売上高予想の主な増減内訳

2018年3月期連結業績予想

オフィス市場向けは、OEMキーテレホンシステムの受注減はあるものの、ネットワーク機器は堅調に推移、また、集中事業である映像事業は取組み強化により受注増を見込む

(単位：億円)



## 2-1. 連結損益予想

2018年3月期連結業績予想

新たな事業への取組み強化のための先行投資R&D計上があり、増収減益を予想、ROEは1.1%に悪化。配当は配当方針に基づき3円を予想。

(単位：億円)

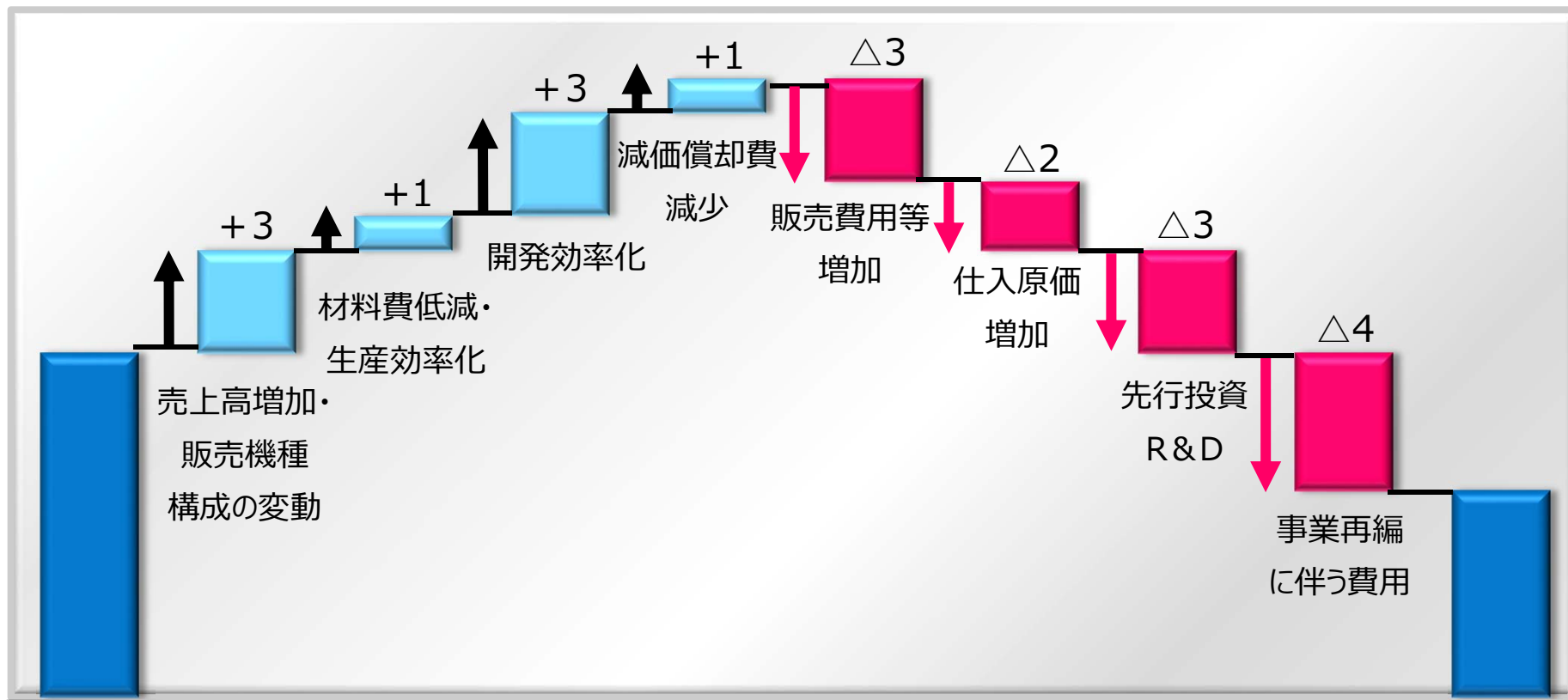
	17/3月期 実績	18/3月期 予想	増減	増減
	(A)	(B)	(B-A)	比率
ネットワークソリューション分野	260	262	2	1%
セキュリティソリューション分野	144	148	4	3%
売上高	404	410	6	1%
営業利益	10	6	△4	△40%
経常利益	11	6	△5	△45%
親会社株主に帰属する当期純利益	5	3	△2	△40%
1株当たり当期純利益	8.42円	4.28円	-	-
ROE	2.2%	1.1%	△1.1%	-
配当	(予定) 5円	(予想) 3円		

## 2-2. 連結営業利益予想の主な増減内訳

2018年3月期連結業績予想

売上増加、販売機種構成の変動および生産・開発の効率化等による増益を図るが、販売費用、仕入原価や先行投資R&D、事業再編に伴う費用の増加があり、利益を圧迫するため4億円の減益を予想

(単位：億円)



10億円  
17/3月期

4億円減益

6億円  
18/3月期  
予想

### 3. 投資計画

2018年3月期連結業績予想

新商品開発に伴うソフトウェア、金型等の投資および新規事業創生のための先行投資枠を確保

(単位：億円)

	17/3月期 実績(A)	18/3月期予想(B)	増減 (B-A)
設備投資 (有形)	4	7	3
設備投資 (無形)	12	13	1
合計	16	20	4
研究開発費	47	45	△2
(先行投資目的のR&D)	(3)	(6)	(3)
減価償却費	22	21	△1



## コーポレートメッセージ

**つなげる技術の、その先へ。**

心地よい暮らし、つまり、

安心で安全、快適で便利な環境の実現に向けて。

つなげる技術を、さらにつなげていくこと。

それを、お客様の明日へとつなげていく、サクサです。